

「2010 年度研究紀要原稿抜粋(4) フラフープの授業」

11 月 20 日 第 2 学年国語科研究授業 どっちに入るかな「きれいなもの きれじゃないもの」

香櫨園小学校 研推だより 第 10 号 101105

研究会の予定 2 年生の研究授業と事後研にむけて

11 月 10 日 (水) 5 校時 2 年 2 組 水谷学級 「どっちに入るかな？」 ランチルーム

10 日 (水) 研究授業に向けて、阪大の本間先生と高橋先生と 2 年生の先生方と相談をしながら、授業をつくっています。今日の 5 校時にランチルームで 10 日の授業のひな型、たたき台の授業を行います。授業者は、阪大の高橋先生です。2 年 4 組の河野学級のクラスの子たちと行います。よければ、ランチルームで輪になって、具体物を使って話す子ども達の様子をみてください。

(経過報告)

10 月 27 日 (水) 2 年生の担任、金澤と阪大本間先生 放送室

研究授業に向けて

水谷 有希子

こどもの哲学

人権参観の「ないともまるもの」を通して学習をした、自分の考えを伝えること、友だちの考えを聞き受け入れること、さらに深めていけるのではないかな。物語を読み自分の考えをまとめるよりも、5 つの選択肢から自分の考えに近いものを選ぶほうが、「ないともまるもの」に近く、子どもたちは考えやすいのではないかな。

オスカルブルニフィエ 「きもちって、なに？」より

◎一人でいるのと、友だちといると、どっちがいい？

- ・一人でいるほうが好き。そのほうが、落ち着くから。
- ・考え事するときは、一人のほうがいいな。
- ・あそぶときは、友だちと一緒にのほうが楽しいよ。
- ・一人でいるほうがいい。僕のおもちゃ、だれにもかしたくないから。
- ・友だちと一緒にが好き。みんな大好きだから。

○兄弟に、やきもちやく？

- ・やかないよ。好きだもん。
- ・うん。だって、ぼくがもってないもの、もっているの、ずるくない？
- ・うん。お父さんとお母さんには、ぼくのことだけかまってほしい。
- ・ううん。やきもちやくと、いやな気持ちになるでしょう。
- ・やかない。けんかになるから。

オスカルブルニフィエ「自分って、なに？」より

○はやく、おとなになりたい？

- ・ううん。赤ちゃんになりたい。そしたら、パパもママも、もっとかまってくれるから。

- ・うん！だって、おとなになったら、一人でいろいろできるでしょ。
- ・ううん。子どものままがいい。あそべなくなるの、やだもん。
- ・なりたい。それで、恋人つくるの。
- ・いや。だって、どんどん年取って、それで、死んじゃうのでしょ。

2年生の水谷先生が用意されていたプリントをもとにして話し合いました。前年度、5年生の藤川学級での阪大高橋先生の公開授業と田畑先生がされた研究授業でされた、相互質問法が2年生でもできるのではないかと考え、授業を試みようという提案でした。オスカルブルニフィエの本の中から、3つの課題を選んでおられました。相互質問法は、夏休みに教頭先生が質問されていたグループワークをしたものです。

相互質問法の2年生に子どもにどのようにするのかという話をしました。その中で本間先生から柔軟な進め方についてのアイデアをだしてもらいました。

次に、本間先生がこれまでの研修で話されてきたフラフープの授業、「リアル」「リアルじゃない」について話して頂きました。人権参観の「ないところまるもの」を例にして説明されました。「ないところまるもの」にお菓子を選んだ子が、「ないところまる」と書いてあるフラフープの中に具体物であるお菓子をおき、その理由を話します。そのおかれた具体物であるお菓子を見て、それは違う「ないところまるものではない」のフラフープに入れかえる子どもがでてくるその動きの中で話し合いが進んでいくという話でした。

相互質問法の言葉をあやつる話し合いなので、2年生には、具体物を使うこのフラフープの授業の方がよいのではないかとになりました。授業者である水谷先生も自分のクラスの子には、具体物を使う方が意見を話しやすいと思われて、この授業をしようということになりました。

しかし、テーマが「リアル」「リアルではない」というのでは、2年生ではしにくいという話になり、2年生にあうテーマとして何がよいのかということを検討しました。

「大切なもの」「大切にないもの」等いろいろなアイデアがだされました。その中で、「美しいもの」「美しくないもの」になりました。哲学では、真善美という課題について取り上げられているという話でした。

したことがない授業なので、阪大の高橋先生に授業をして頂くことをお願いしました。

1 1月2日（火）2年担任、金澤と阪大高橋先生

1 1月5日（金）5校時の授業の具体的な打ち合わせをしました。テーマ「美しいもの」「美しくないもの」では、2年生の子にはなじみのない言葉なので、「きれいなもの」「きれいでないもの」に変更になりました。そのテーマにあった具体物を何にするのかについてアイデアを出し合いました。意見がわれそうな具体物にはどんなものがあるかなとあれこれと話し合いました。

授業を進めていく上で、必要な準備物、ワークシートについて打ち合わせをしました。

しかし、この授業のねらいとそれをどの教科とするのかという話しはなかなか難しいものでした。2年生の子どもをどのように育てるのか・・・。

今回の授業はとても価値のあるものだとは私は信じています。それをわかってもらえる説明ができるようにならないといけないのだと思っています。

今日の5校時見てください。ご意見をお聞かせください。

1 1月5日（金）高橋先生の2年生のクラスでの模擬授業

前日に高橋、本間先生からメールを頂いた。

1 1月4日（木）高橋先生のメール

高橋です。明日の授業よろしくお願ひします。

「どっちに入るかな」の授業目標を作文にしました。使えるようであれば教案作りにお使ひください。言葉が固ければ適当に変更してください。

- ・オーストラリアで「こどものための哲学」の実践を行い、子ども達の対話力、思考力を養う授業づくりをしているビューランダ小学校で行われている授業手法である。
- ・「A（きれい）である」「A（きれい）でない」のように、Aという言葉（概念）に何が含まれて、何が含まれないかということや、Aという言葉と似た意味で使われる言葉（清潔、美しい）やその違いについて、具体的な物をフラフープの間を移動させながら考えていく。
- ・あるものがどっちに入るか自分達で区別をしながら、その理由を基準に挙げていく。そのことを通じて、他の人がその言葉をどう捉えているか理解し、それについても意見が述べられるとよい。
- ・上のことを通じて、言葉（概念）の意味を理解し、またそれについて話し合うという、対話や議論を行うのに必要な論理的思考力の基礎を作るためのワークである。

本間先生のメール

基本としては、高橋先生の書かれている通りで不足はありません。

ただ、以下の説明はやや中学年向けですので、低学年で実施する場合は、「対話、論理的思考力や議論を行うための準備作業」と位置づけるのがより相応しいように思われます。

つまり、この手法を用いて対話や議論を行うことが今回の目的ではなく、

- （1） 言葉を使わなくても物を区別して置く
- （2） 他の人の判断（考え）に関心をもつ
- （3） 他の人からの質問に答えてみる

ということが、授業時間中に体験できることが目的になります。

また、言葉が得意でない生徒にも、物を動かすだけで、みんなで「考える」という作業に参加できる、ということもこのやり方の特徴です。

10日に公開する授業とは、違うクラスで高橋先生に模擬授業をして頂いた。教室ではなく、ランチルームで、子ども達は床に座って円になり、円の中心にフラフープを置いて授業を行った。

第2学年国語科学習指導案

指導者 水谷 有希子

1. 日時 平成22年11月10日(水) 5校時(13:45～14:30)
2. 場所 ランチルーム
3. 対象 2年2組 男子20名 女子13名 合計33名
4. 単元名 どっちに入るかな

「きれいなもの きれじゃないもの」

5. 単元目標

- ・よりよい話し合いの場が持てるよう、自分たちでルールを考え、守ろうとする態度を育てる。
- ・みんなが作る話し合いの場の中で、意見を出し合い、自分の考えを深める。

6. 趣旨

(1) 児童観

本学級の児童は、進んで発表する子が多く、自分の考えを伝えようという気持ちをもっている。しかし、まだ幼い面も多くあり、自分の考えを言葉ではうまくまとめられない子もいる。

国語では、「教えてあげる、たからもの」において、自分の大切なものについて、自分の思いをなるべく詳しくまとめ、友だちに伝える学習をした。「たからもの」というテーマであったので、積極的にそれぞれ自分の思いを伝えようとしていた。しかし、わかりやすい文章にまとめられる子もいれば、短い言葉でしか表現できない子もいた。

図工では、自分の作品について紹介するスピーチをしたり、生活科では、町たんけんの発表会をしたりと、いろいろな教科の中で自分の考えを発表する機会を持ち、最近は少しずつうまくまとめられるようになってきている。

また、人権参観の「ないところまるもの」では10個の選択肢から4個を選び、グループ内で選んだ理由を説明し合い、友だちの意見を聞くことでいろいろな考えがあることに改めて気がついていった。そして、自分とは違う考えがあることに関心を持ったようで、「どうしてそう思うのか。」というような質問を自発的にし、さらに自分の考えを深めることができた子も多くいた。

(2) 教材観

この教材「どっちにはいるかな」は、「こどものための哲学」の実践として、子どもたちの対話力、思考力を養う授業作りをしているオーストラリアのビューランダ小学校で行われている授業手法を取り入れたものである。本学級の子どもに、自分とは違う考えがあることに関心を深め、友だちの意見を聞く力をつけるのに適した教材であると考え取り入れた。

今回のテーマは、子どもたちにとって考えやすいものとして「きれい」という言葉を選んだ。ランドセルなどの具体物や虫などの写真を見て、それらのものを「きれい」「きれじゃない」「どちらでもない」と決めて、「きれいなもの」「きれじゃないもの」「どちらでもないもの」のフラフープの中に具体物を置く。そして、その時に理由を話す。実際に具体物が3つのフラフープの中を行き来する動きが、子どもたちに働きかけ、思考を促し、自分の思いついたことを話したいという意欲を持たせることができる。

また、具体物を移動させながら考えることで、言葉を使って表現することが得意でない子どもでも、話し合いに参加しやすくなると思われる。

具体物を介して、「きれい」について考えることで、「きれい」という言葉に当てはまるものと当てはまらないものがあることを知り、言葉について自分なりの概念を持つことができる。また、友だちの意見を聞き、さらに自分の考えを深めることができる。

一つひとつの具体物を取り上げながら子ども同士で対話することは、指導要領の国語・第1学年及び第2学年の目標である「相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようという態度を育てる。」に繋がると考える。

(3) 指導観

本単元の目標である、“みんなが作る話し合いの場”を設定するために、サークル（輪）になって座り、友だちの顔が見える形態にした。

まず、第1時では、自分たちで話し合いの場を作っていくために、どのようなルールが必要か考えさせたい。話し合いをスムーズに進行させるためのルール、みんなに自分の考えをしっかりと伝えるためのルール、友だちの意見をしっかりと聞くためのルールなどが、子どもたちから出てくるよう話し合いを進めたい。

第2時では、第1時に子どもたちが考えたルールに従い、具体物を使い「きれい」についての話し合いを進めたい。いろいろな意見が出ると予想されるが、どんな意見も肯定的に受け止め、より多くの意見が出るような話し合いにしていきたい。特に、普段自分の考えをうまくまとめられない子どもたちにも、実際に具体物を「きれいなもの」「きれいじゃないもの」「どちらでもないもの」のフラフープの中に置くことで、話し合いに参加させたい。そして、人によっていろいろな考えがあることを確認したい。

また、まとめとしてワークシートには、自分が思う「きれいなもの」「きれいじゃないもの」を書き出し、自分なりの「きれい」についての概念を持たせたいと考える。

7. 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	一つの言葉の広がりに関心を持つ。
話すこと・聞くこと	聞き手に分かりやすく工夫して話したり、話の内容を正しく聞き取ったりする。 何について話し合うのかはっきりさせて、話題にそって分かりやすく話している。
言語	言葉の持ついろいろな意味を知る。

8. 指導計画（全2時間）

時	学習内容
1	サークルは、みんなで話し合って考える場所であることを認識し、そのためのルール作りをする。
2	「きれい」という言葉の概念を、具体物を使って考える。

9. 本時の目標

一つの言葉が持ついろいろな意味を知り、自分なりの概念で言葉をとらえることができる。

10. 本時の展開

時間		学習内容	指導上の留意点
導入	5分	○前時に話し合ったルールを確認する。 ・ ゆっくり、はっきり、大きな声で話す。 ・ 意味がわかりやすくなるように話す。 ・ 相手の方を見て、最後まで静かに聞く。	○ルールを書いた画用紙を提示する。
展開	30分	○具体物を「きれい」「きれいじゃない」「どちらでもない」のフラフープの中に置き、自分なりの言葉で理由を説明する。 具体物 ・ カリン ・ カミキリムシ（写真） ・ ぬいぐるみ ・ ランドセル ・ カップ ・ かみなり（写真） ・ 手提げかばん ・ 鉛筆 ・ 給食の食器 ・ ヘビ（写真）	○自分の考えをうまくまとめられない子には、具体物の移動を促す。 ○どんな意見も肯定的に受け止め、より多くの意見が出るようにする。 ○常にルールに従って、話し合いが進められるよう声をかける。
まとめ	10分	○ワークシートに、自分なりに考えた「きれいなもの」「きれいじゃないもの」を書き出す。 （理由は、書ければ書く。）	○授業で話し合った使った具体物以外のものを書いてよいことを伝える。



どっちに はいるかな？



きれいなもの きれいじゃないもの

○「きれいなもの」と「きれいじゃないもの」をわけてかきましょう。

きょう出なかったものでも書いていいですよ。

きれい

-
-
-
-

きれいじゃない

-
-
-
-

○書ける人はえらんだりゆうも書きましょう。

きれい

名前

りゆう

きれいじゃない

名前

りゆう

○今日、話し合いをして かんじたこと・思ったことを書きましょう。

2年

組 名前 {

}

研究授業 まとめ
～児童の感想より～

- ・みんな自分の思ったことを言っていたから、すごいと思った。
- ・みんなの意見を聞いて、私は「そんな意見があったのだ。」と思いました。
- ・いっぱい言いたいことがあった。
- ・みんなは、いろんなことを考えているなと思った。
- ・なるほどと思う意見があった。
- ・最初手を挙げたとき、当てられて恥ずかしかった。でも、うまく理由が言えてよかったです。
- ・みんなの意見を聞いて、自分も言いたくなりました。

前時

ルール決め

話し合う内容や授業形態等について説明し、話し合いを進めていくために必要なルールを考えさせた。子どもたちは今までの経験を踏まえ、話を聞くためのルール、発表のためのルールなど、すぐに考えられていた。今までに経験したことのない授業形態なので、ルールを決めることは自分たちで話し合いの場を作っていくのに有効であると思った。

1つ目・2つ目の話し合い

普段から積極的に発言する子が、1つ目から意欲的に挙手・発表していた。初めてだったので、発表が苦手な子たちは、興味を持って具体物や発表する子を見ていたが、自分の意見がまとまらないのか挙手は少なかった。

時折ルールを確認するための声かけをしながら話し合いを進めたが、1回目としては、話し合いの場をみんなで作ろうとしていた。しかし、言いたいという気持ちが強く、友だちの考えを受けて考えを深めるということはできていなかったと思う。

本時

話す・聞く

前時に2つ経験していたので、本時では、話し合いの方法を理解し、多くの子どもが挙手していた。具体物を手にし、自分なりによく考えて分類し、理由を述べることができていたと思う。聞く側も、言いたい気持ちを抑えて、発言する子どもの方を見て、その子の考えを聞くことができていたと思う。また、周囲に参観者がおり、教室ではなくランチルームの床に円になって座るといういつもの違う授業形態であったにもかかわらず、子どもたちは、自分たちで考えたルールにのっとり集中して話し合い活動を行うことができたと思う。

感じる・考える

子どもたちは、箱から具体物が出てきたとき、歓声を上げながらも集中して見ていた。また、指名された子どもは、実際に具体物を手にして、分類する前にもう一度考えてから置いていた。このような子どもの表情・様子を見てみると、どの子も「きれい」について自分なりに真剣に考えることができていたと感じられた。

指導に際して

前時では、教師が子どもの意見のほとんどを復唱し確認していた。しかし、子ども同士の言葉のやり取りの中から、「きれい」についてそれぞれに感じたり、考えたりできるよう、本時では、子どもの発言に対しては相づちをする程度にとどめるよう心がけた。教師の関わりを最小限にしても、2回目の話し合いということもあり、子どもたちは友だちの考えを集中して聞くことができていた。さらに、授業後の感想を見ると、自分にはなかった考えを聞き、同じものを見ても人によって「きれい」の感じ方、考え方が違うことを知り、「なるほど」と思った子が多かった。中には、友だちの考えを受け入れ、自分の考えが揺れた子どももあり、子どもたちそれぞれが、言葉のやり取りの中で「きれい」について考えを深めることができた。

まとめ

この授業を通して、初めは発言できず、具体物を分類するしかできなかった子どもが、2回目では、具体物を分類し、自分の考えを発表することができた。これは、授業の中で、友だちの考えを聞くことで、自分の考えを深め、自信を持つことができたからだと思う。

このことを受けて、今回行った手法“みんなで作る話し合いの場”を、他の教科の中でも取り入れ、より多くの子どもの変容へとつなげたい。今後の課題としては、日常生活の中でも、友だちの考えを受け止められる子どもへと育てていくことだと考える。

研究全体会の感想

○なかなか手があげられないのは、「もし間違えたことを言って笑われたら……。」とってしまうのです。大人になった今でも私は同じように考えてしまいます。普段 手をあげない子が答えることができたのは、間違いを正すのではなく、みんなの考えを知って、自分の考えを深める授業だったからかなと思いました。

○3年生は、環境学習で感じたことを交流し合う授業を 今回の対話の方法や話し合いの意図をもって学期に1回ずつとる計画です。円座で話すことや教師の役割など共通することが多く、活かしていきたいと思いました。